

令和7年度 帯広市立豊成小学校 経営方針

◇ 学校経営理念 ◇

【教育理念】

これからの時代を生き抜く「人間力」の育成を目指し、豊かな人間性や社会性を育み、**自ら学ぶ意欲**を培い、健やかな体を育てるなど、人間として知・徳・体の調和のとれた児童を育成し、地域と協働で**信頼される学校**を創造する。

◇ 学校教育目標 ◇

たくましく元気な子ども⇒強く

- ・ **元気よく遊び、運動することが好きな子**
- ・ 健康な生活を送ろうとする子
- ・ 危険を察知し、**自他の生命を尊重する子**
- ・ 失敗を恐れず、どんどん挑戦する子

よく考え進んで学ぶ子ども⇒正しく

- ・ **基礎基本を確実に身に付ける子**
- ・ 学び方を習得し、工夫して解決する子
- ・ 学びが好きで、好奇心にあふれる子
- ・ **自ら、学び合い、思考を深め、広げる子**

明るく心豊かな子ども⇒美しく

- ・ 相手の気持ちがわかり、協力できる子
- ・ **自他のよさを認め合える子**
- ・ 自ら笑顔で挨拶できる子
- ・ 進んで行動し、達成感を味わう子

力を合わせやりとげる子ども⇒仲よく

- ・ めあてを自分事として努力する子
- ・ 場に応じた正しい判断ができる子
- ・ **励まし合える仲間づくりができる子**
- ・ 進んで助け、共に達成感を味わう子

◇ 目指す姿 ◇

未来に向かって キラキラ輝く子ども (エリア・ファミリー)

【子どもの姿】

- ①自分や友達の**キラキラ（よさ）**に気付き、自信をもって挑戦できる子ども
- ②目を**キラキラ（好奇心）**と輝かせながら、活動に取り組む子ども

【目指す教師像】

磨き、輝かせる

- ①子どもを支えるプロとして、
学びをマネジメントできる教師
- ②豊かな人間性や総合的な人間力、
指導力を**自ら磨き続ける**教師
- ③公教育への使命感と情熱をもつ教師
- ④ワークライフバランスを大切に、
笑顔でつながる教師集団

【目指す学校像】

切磋琢磨して自ら輝く

- ①**安心感**をもち過ごす、**心の居場所**となる学校
- ②子どものよさや可能性をしっかりと伸ばす学校
- ③当たり前のことにとり組む学校

【目指す家庭像】

しっかりとした核を育てる

- ①生活リズムを整え、心身ともに健康な家庭
- ②認め、励まし、ふれあいを重視する家庭
- ③**学校、地域とつながる**家庭

豊成小学校コミュニティ・スクール 地域とともに！

重点教育目標

子どもが主人公

“学び”を子どもとともに創る

～ “不易”を貫き “流行”に挑戦する学校 ～

- I 子どもも教師も笑顔と安心感のある居場所づくり
- II 自ら学ぶ授業の日常化と基礎基本の確実な定着
- III 心と体をしっかりと育む日常的な体づくり・心づくりの充実

時代を生き抜く「人間力」を育成

人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力

小学校6年間を通した系統的な **キャリア教育**

重点課題Ⅰ 子どもも教師も笑顔と安心感のある居場所をつくる！

学校の“不易”は学びの土台、誰もが安心して学べる、指導できる環境で・・・

- (1) キャリア教育を土台とした教育活動の継続とカリキュラムの充実
- (2) 豊成小スタンダード（学習規律）を定着させるための方策の共有化と徹底
- (3) 肯定的に児童を理解し、心の居場所として安心感をもって生活できる学校・学年・学級経営
- (4) 多様な学びを支える学習環境や体制、校内支援センターの整備

重点課題Ⅱ 自ら学ぶ授業の日常化と基礎基本の確実な定着を図る！

習得（不易）と活用（流行）のバランスをとり、次代を生きる子どもに必要な力を育成

- (1) 学びを計画的にマネジメントし、子どもを主人公とした教育活動の日常的な実践
- (2) 一斉授業のよさを活かし、習得と活用のバランスを考慮した持続可能な授業実践
- (3) ゴールを子どもと共有することにより、成果（成長）を実感し、次の学びにつながる評価の実現

重点課題Ⅲ 日常的な心づくり・体づくりを充実する！

道徳等により豊成子ども憲章の理念を実現、体育や日常の遊びにより健やかな体を育成

- (1) 「豊成小学校子ども憲章」と連携を図り、「豊成三つの約束」とともに目指す姿として実現
- (2) 運動する楽しさを味わうことのできる遊びの環境づくり
- (3) 自他の生命を守る判断力と実践的な態度（危険予知＋危険回避）の育成

◇ 重点課題の具現化に向けた五つの視点 ～不易と流行のバランス～ ◇

- | | |
|------------|------------------------------|
| (1) 自分づくり | 「確かな学力」と「未来を創造する力」 |
| (2) 仲間づくり | 「安心感があり、学校が楽しいと感じる居場所」 |
| (3) 心と体づくり | 「どんな困難にも負けない強い心と体」 |
| (4) チームづくり | 「個々のよさを活かした協働性を発揮できるしなやかな組織」 |
| (5) 地域づくり | 「豊成のよさを誇れる子ども、保護者、地域住民、教職員」 |

(1) 自分づくり 社会を生き抜く力の基盤となる「確かな学力」「未来を創造する力」を育成するために

- ① キャリア教育を土台とした教育活動の継続と弾力的な見直し
 - ・『キャリアしなきゃ!』を手引きとして、キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力の共通理解、**キャリア教育全体計画を主軸に日常の授業を含めた教育活動の推進**と見直し
- ② 豊成小スタンダード（学習規律）を定着させるための方策の共有化
 - ・ **本校の学びの継続性を意識した統一的な指導**の徹底
 - ・ 幼稚園や保育園での経験を土台とした指導と中学校を意識した指導の工夫（異校種連携）
- ③ 自ら学ぶ授業、思いを実現できる授業、子どもを主人公とした取組の日常的な実践
 - ・ **「教わる」「教える」授業から「学ぶ」「支援する」授業への転換**
 - ・ **子どもの「やってみたい」を実現できる場と時間**の計画的な確保（教師は支えるスタンス）
 - ・ 明確なゴールのイメージを子どもと共有、学びを振り返り、成果を実感できる工夫
 - ・ 個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた有効なスキルとしてのタブレット端末の活用
 - ・ 校内研修、公開研究会等での授業実践公開（**一人一実践**）
- ④ 基礎基本の確実な定着と学習習慣の定着
 - ・ 一斉授業のよさを活かしながら、タブレットや少人数・習熟度別指導等を活用した**個別最適な指導を組み入れた「わかる・楽しい・力のつく」授業の実践**
 - ・ **中・高学年による交換授業（専科的指導）の実施**
 - ・ スマイルネクストや読書を中心とした朝学習の習慣化による落ち着いた一日の始まり
 - ・ 授業と家庭学習をつないだ学習習慣の定着（スマイルドリル等の活用）
- ⑤ 問題解決的な学習、体験的な学習、探究的な学習、協働的な学習の積み上げ
 - ・ 授業における協働的な学習活動の意図的設定（学びをマネジメント）
 - ・ 教科横断的な視点を軸とした「ゆたかタイム」のねらいの再確認と充実（体験的活動の充実）
 - ・ 地域の教育資源の活用と教育力の積極的導入
- ⑥ 個別最適な特別支援教育の充実と適正な就学指導、多様な学びへの対応
 - ・ **すべての児童へ特別支援教育の視点**で深める理解や支援（合理的配慮の充実）
 - ・ 長期的・短期的な目標の設定、個別の指導計画の作成と実践の蓄積
 - ・ 特性に応じた交流学习の効果的な実施と豊かな人間関係づくり（一貫した指導とサポート）
 - ・ 授業時数の半数以上の時数を見据えた特別支援学級での指導の充実
 - ・ 総合支援部を中心とした学校全体の**子どもや保護者の困り感を支える仕組の充実**
 - ・ **校内支援センターの環境整備**と機能化
- ⑦ 豊成3つの約束「挨拶・返事・敬語」「歩こう廊下」「きれいな校舎いつまでも」及び目指す姿としての「豊成小学校子ども憲章」の理念を具現化する学校生活の取組

- ・職員が率先して取り組む姿と学級や学年間、教師間による格差のない指導の徹底
- ・全教育活動における「豊成小学校子ども憲章」の意識付けと活用
- ⑧ 全国学力学習状況調査、標準学力調査、チャレンジテスト等の活用
 - ・組織的採点、分析を通して、課題を洗い出し、効果的な指導をすぐに実行
 - ・解き直し、学び直しによる学力保障
- ⑨ 学習指導要領の趣旨を実現する教育課程の編成・実施
 - ・教育課程の編成、実施、評価、改善を図った学校教育の改善及び充実

(2) 仲間づくり 「安心感があり、学校が楽しいと感じる居場所」をつくるために

- ① 認め合い、励まし合える、安心感のある学年・学級づくり
 - ・全ての児童に目・心・声・手を掛け、肯定的な児童理解とほめる・認める指導の重視
 - ・心の居場所としての絆を実感でき、安心感をもって生活できる学校・学年・学級経営
 - ・望ましい人間関係の醸成（協力、思いやり、個性の尊重）
 - ・質の高い文化（特別活動・児童会活動を核にして）を創り上げる学年集団
- ② 深い児童理解と信頼関係に基づく生徒指導の充実
 - ・自己肯定感や自己有用感を高めるために児童に寄り添い、達成感を味わえる生徒指導の充実
 - ・集団と個人の統合（社会性と自立）を図る指導の実践
 - ・いじめの未然防止、積極的な認知（いじめ見逃しゼロ）、早期解決を目指した組織的な対応
 - ・不登校傾向児童、不適応傾向の児童への対応としての相談機能の充実と多様な学びの提供（学びや支援につながらない児童ゼロ）
 - ・幼保、中学校との連携による基本的な生活習慣の確立
 - ・『生徒指導提要』の理解・活用
（発達支持的生徒指導・課題予防的生徒指導・困難課題対応的生徒指導）
- ③ 学年経営を重視した複数指導体制の構築
 - ・本校のスケールメリットを活かし、子どもを複数の目で多面的、多角的に理解し、指導
 - ・教職員の心と体の負担分散と協働からなる信頼感の構築

(3) 心と体づくり 「どんな困難にも負けない強い心と体」を育成するために

- ① 人間的なふれあいの重視と豊かな人間性や社会性を育てる指導の充実
 - ・「はあとふる集会」等を通じた自己の生き方や他を思いやる心について学ぶ道徳科の授業の充実と日常の道徳的実践力の連携
- ② 体力の向上と進んで運動に親しむ態度
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の組織的な分析・検証・改善
 - ・日常的な遊びを通して、運動量を確保し、運動する楽しさを味わうことのできる環境づくり
 - ・考える体育活動の工夫と運動環境の整備
- ③ 健康安全に努めようとする態度と実践力
 - ・自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成
 - ・自他の生命を守る判断力と実践的な態度（危険予知＋危険回避）の育成
 - ・食育の充実とアレルギー体質をもつ児童への配慮の徹底、フッ化物洗口のスムーズな再開
 - ・挨拶、時間、下駄箱、給食、清掃活動等「心」が見える指導の統一と徹底
 - ・家庭や関係機関と連携した日常的な健康増進や感染症予防

(4) チームづくり 全教職員が「個々のよさを活かした協働性を発揮できるしなやかな組織」を構築するために

① 協働体制の確立

- ・教職員一人一人の役割と責任を明確にした協働体制の確立と互いへのリスペクトを土台とした個のよさを組織の強みに束ねる学校経営の展開
- ・学校教育目標や重点課題を分掌、学年・学級経営に織り込み、一体感のある学校経営の推進
- ・複数の目と担当の責任のバランスのもと、合理的な進行管理を進め、効率を高めた校務分掌
- ・「報告・連絡・相談・確認」の徹底と気軽な言葉がけの励行
- ・働き方改革の推進
 - 子どもとつながる時間の確保（会議の精選化、資料の簡略化・データ化、日課表の工夫）
 - 定時退勤日の個人設定による積極的な実施
 - 退勤時間の設定～午後6時（最終午後6時30分には退勤）
 - スケールメリットを活かした適切な作業分配と分掌業務の効率化
 - タイムパフォーマンスやコストパフォーマンスを意識した業務の推進、改善
 - 分掌業務の統合や廃止、行事の縮小による準備時間等の削減

② 教職員の資質向上

- ・内外に開かれ、日常の授業実践に直結する校内研修の充実
- ・質の高い日常授業の構築と蓄積、相互参観の促進（わかる、楽しい、学びを実感できる授業）
- ・授業研究や公開研究会のあり方の工夫
- ・個のチャレンジが学校を変える、チャレンジする研究実践
- ・自らの力を高めるための各種研究会、研修会、講習会等への積極的な参加と還元
- ・日常的な情報提供等を通じた服務規律（体罰・不適切な指導を重点）の主体的遵守と教育公務員としての自覚の高揚

③ 学校事務・学校予算

- ・公正、迅速、的確な予算執行と事務処理
- ・各種文書、諸帳簿の適切な作成、保管、廃棄
- ・公費、公金の適切で厳正な管理や節減、節約（私費会計要領）

(5) 地域づくり 「豊成のよさを誇れる子ども、保護者、地域住民、教職員」となるために

① 社会に開かれた教育課程

- ・社会に開かれた教育課程経営の推進と発信
- ・保護者、地域・社会の負託に応える学びの実現と地域への還元
- ・地域と連携した豊成ならではの教育活動や「おび学」を通じたふるさと理解

② 将来を見据えたキャリア教育の充実

- ・キャリア教育を主軸とし、教育活動全体を通じて行う計画的、組織的な進路指導
 - 人や社会とかかわり合いながら養う「人間関係形成・社会形成能力」
 - 自分のよさや持ち味に気づき養う「自己理解・自己管理能力」
 - 様々な体験活動を通して養う「課題対応能力」
 - 夢や目標をもち、折れない心を養う「キャリアプランニング能力」

③ コミュニティ・スクールを基盤とした地域と繋がる学校づくり

- ・CS運営協議会の充実（CSを核とした地域の取組の実施）

- ・学校地域支援本部が中心となった各種ボランティア団体との連携
- ・地域の教育資源、地域人材、外部講師の発掘、おび学の有効活用による教育課程の充実
- ・学校便りやホームページなどによる積極的にタイムリーな情報発信
- ・豊成文教ゾーンの有効活用
(近隣高校・畜産大学・高等看護学院・コア専門学校・北斗病院等との交流、連携)
- ・南町中エリア・ファミリーとの接続、幼稚園・保育園との連携の重視

④ 人的、物的な環境整備（豊成のよさ）

- ・潤いと安らぎを育むなごみ感のある教室環境、学校環境の快適化
(整理整頓された教室や職員室、学習の足跡づくり、動きのある校内掲示)
- ・いたわりと優しさを培う教育活動及び言語環境の充実
- ・特別教室の整理整頓と施設や設備を大切にする習慣形成
- ・教師は「最大の教育環境」である（ＴＰＯを踏まえた服装、言動、適切なサービスの確保）

⑤ 家庭との連携・対応

- ・傾聴を軸とした丁寧な初期対応（家庭訪問・電話連絡）、学年・学校内での共有、即時に手立てを実施、経過を家庭と共有
- ・連携を密にし、家庭の教育力を生かす働きかけ
宿題・家庭学習や家庭での読書の習慣化
毎日の宿題（スマイルネクスト等の活用）、課題を決めて行う家庭学習の継続
- ・児童に規則正しい生活を身に付けさせるための働きかけ
早寝・早起き・朝ご飯の習慣化
様々な場面での啓発による保護者への意識化